



※俳句部へのお誘い
 (お問い合わせ)文化協会事務局 81-1023
 現在、町文協俳句部には以上の二十一名が在籍しております(年齢順)。九十歳のお二人を筆頭に八十四歳以上が十名も居られ、共々豊饒として名句を発表され月々の句会を楽しんでおられます。
 因みに、永年部の重鎮として活躍され、先に逝去されたKさんは百歳、Iさんは九十四歳でした。適度な運動と食事に加え『頭の体操』の大切さを感じます。ぜひ、皆様も『俳句』始めてみては如何でしょうか。

俳句
 兼題「春の海・遠足・菜の花」他当季雑詠
 四月十八日 境町文化協会俳句部

春の海魚群を追ふてもめ飛ぶ
 春の海目映く巨船陽を返し
 何事も無きよう返せ春の海
 ゆったりと遠く霞んで春の海
 春の海活気漲るサーフィン
 遠足や未知の世界へバスの旅
 春の海遊覧船の島巡り
 菜の花や果てなく続く金の帯
 菜の花や田の畦染めて額をなし
 遠足にいなり海苔巻き母心
 菜の花に遊び過ぎたる人日かな
 菜の花や河原めぐりて草愛でし
 春の海沈む夕日を惜しみけり
 遠足の黄色い帽子が手を繋ぐ
 菜の花や釣り師奏でる竿の声
 蟬り解けて睦まじ春の海
 歎持つを至福と思ふ花菜晴れ
 春の海ゆったりゆったりと駿河湾
 遠足や帰路は無言の子等の列
 菜の花や付かず離れず蝶の舞う
 菜の花や少女の眉の薄かりき

ちよ (大山千代)
 つね女 (皆川つね)
 登 (臺登一郎)
 ちから (鈴木 力)
 弥生 (倉持弥生)
 省三 (小川省三)
 信子 (古谷野信子)
 なか (菅谷なか)
 譲一 (遠藤譲一)
 とき (大竹とき)
 久子 (渡辺久子)
 まもる (寺山 守)
 幸子 (大岡幸子)
 みえ (飯塚美枝)
 光夫 (川辺充雄)
 きみ代 (須賀君代)
 正六 (篠塚正六)
 正映 (中村正己)
 仁 (中村 仁)
 健二 (後藤健二)
 香こ (高塚香代子)

短歌
 境短歌会 山鳩

仰ぎ見る桜菜の花絵のような利根の堤に雲雀囀る
 筑波山春の日差しに誘われて紅白の咲く梅林歩む
 雨傘に桜の花びらちりばめて日課の散歩を夫は元気に
 ささやかなま白き花をかが咲く畑の隅の蕓の清しき
 山椒の若芽の薫り古里の祖母の一品作りみる今
 桜島行き交う船に初夏の陽が眩しく光り波頭切る
 桜散りて山は緑りに変りきて老の我身も心染しむ
 はらはらと風に散りゆく桜花霞む腫の晩春の詩
 春風にそよぐつばなの群なして穂並のうねりついで足を止む
 下校児の子等に送られ小島達への字にまどい時に帰る
 水鉢の水も溶けて姫水蓮芽ぶくを見たる早春の朝

桜井 レイ
 斉藤 敬子
 川村 米子
 風間 リヨ子
 川上 ヒサ
 稲田 美重子
 飯田 俊子
 松岡 美智子
 本島 いと子
 五月女 三枝子
 鈴木 喜与子

陰暦の水無月山野が青々と茂る頃なので青水無月とも言おうです。爽やかな季節も半ば頃になりますと梅雨に入ります。何となくうつとうしい日が続きますが、雨に濡れた紫陽花等を見るのもなかなか風情があります。雨も又良しと言う事でしょう。
 新しいお友達も増え、楽しく和やかに一歩でも向上出来る様に、研鑽して行き度いと思えます。

のりしろ①
 のりしろ②
 のりしろ③

のりしろ①

のりしろ②

のりしろ③

のりしろ①

のりしろ②

のりしろ③

谷折り①

谷折り②

〒 ご住所	ご職業
	電話番号
お名前	男・女 歳
匿名の場合は、回答できませんので、ご住所・お名前等を必ずお書きください。	

意外な事実▶約80%の都道府県で地元紙が県内シェアNo.1と言う事実!

悪い、
 のは茨城新聞社でした!

県内の細かなニュースはテレビ、ネットには登場しません。
 なのに、残念ですが地元紙「茨城新聞」のシェアは第3位です。
 悪いのはアピール不足の茨城新聞社です!でも、地元の話題や県内スポーツ等、皆さんの身近なニュースは質、量ともNo.1!
 是非この機会に無料で体感してください。

無料進呈
 茨城新聞を7日間無料で毎朝、お届け致します。
 お申込は 茨城新聞社 TEL 0120-029-218
 申し込みは いますぐ